

に世界遺産地域へのアクセスルートとして安全で安心して通行できるように林道維持のための予算を別枠で確保することをお願いしたところです。

◇ 町民会議の要望事項について

町民会議は、町民の代表である議会の皆様の活動の一環として行われてきているところであります。町といたしましては、町政座談会に代わる町民の意見や要望を町政に反映できる大切な会議であると認識しています。

今年度の町民からの要望事項については、全31項目中、11項目については既に対応しています。残り20項目についても今後充分検討を加え、必要と判断される事項については順次実施していきたいと考えています。

◇ 平成25年産米の集荷状況

J Aあきた白神藤里営農センターの11月20日現在における集荷実績によると、30kg単位での予約数量80,054個に対し、集荷数量は76,275個(集荷率95.3%)となっています。6月の好天により田植えの遅れは回復しましたが、7月の長雨で中干が弱まったこと等から無効分げつが多くなり、結果的には穂数が平年を下回り総粒数が減少したことから、作柄は平均をやや下回る10a当たり8.7俵となっています。

また、1等米比率は95.8%と昨年をやや上回りましたが、能代山本地域の平均96.3%に対しては0.5%程低くなっています。出穂期のバラツキにより、こ

れまでカメムシ被害のなかった農家にも被害が発生するなど、品質の低下が原因となっています。



◇ 平成26年産米の需要量

11月29日に国から都道府県別の生産数量目標が示されました。国の26年産米の生産数量目標は、今年より26万t少ない765万tとなっています。

秋田県には、前年比3.0%減の443,040tが配分され面積換算値では、昨年より2,340ha少ない75,570haの配分となりました。これを受けての各市町村への配分は、12月27日に示されることになっていますが、生産数量目標については、県の較差縮小に係る取り決めにより来年度は変わらないことになっていることから、町への配分は国から示された減少率そのまま数量の減となり、面積換算では今年より14ha少ない460ha程の生産数量目標になるものと思われ

来年度以降の転作の具体的な取組みについては、今後、情報が明らかになり次第、町農業再生協議会で協議、検討し、協議会の臨時総会で配分方針を決定することになります。

◇ 畑作の生産状況

ネギの生産数量は、目標の38t、1,188万円に対して22.6t、655万円、夏場の長雨により青果物全体の生産数量目標の65%の29t、995万円に留まっていることから今後出荷が始まる山ウドやアスパラガスなどの売上げに期待したいところです。

4年目の出荷となったリンドウについては、採花面積が177a、採花本数が42万1,780本、販売額では2,256.7万円となりました。

10a当たりの反収が127万円とされており、更に作付けが伸びることを期待します。

なお、今年には集中豪雨に見舞われ、農地や農業用施設に災害が発生しました。復旧に向けて9件の災害復旧事業を申請し、査定は全て終了しています。

来春の営農に向けて、早期の着工を目指しておりますが、県北には査定を終えていない災害箇所が200件以上あり、設計業者が委託業務を消化しきれない状況となっていて、当町の実施設設計書の作成も遅れています。このことから、設計書の作成については最善を尽くしてまいります。工事発注は年を越してからとなります。

◇ 藤里町づくり計画の策定

本町の基本構想については、「藤里町総合振興計画」として平成25年度までの10カ年計画を平成16年に策定されていますが、現在、平成26年度からの10カ年を計画期間として計画を策定中です。

地域経済の停滞や町の基幹産業である農林業の今後、あるいは少子高齢化や集落の維持など様々な課題が山積されていますが、町制施行50周年を契機に、地域資源を活用した「持続可能な町」を実現するため「藤里町まちづくり計画」を策定し、将来の基本的方向を示すものです。

主な議案内容

- ◎ 藤里町子ども・子育て会議条例の制定について
- ◎ 特別職の職員で非常勤のもの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ◎ 藤里町諸収入金の督促手数料及び延滞金の徴収に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- ◎ 藤里町後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例の制定について

一般会計補正予算

歳入歳出それぞれ2,493万7千円を増額し、予算総額を38億6,751万8千円としました。今回の補正では、災害復旧等に係る人件費や、各施設の維持管理経費を計上し